

小樽市健康増進計画「第2次健康おたる21」 評価項目の目標の現状と課題、今後の方向性

資料 1

(1) がん・循環器疾患・糖尿病領域

目標	計画策定時数値 〈数値の出典〉	中間評価 時点の数値 〈数値の出典〉	目標値 (平成34年度)	課題と今後の方向性
①がんの75歳未満の年齢調整死亡率の減少 (人口10万人当たり)	98.6 (平成22年度) 〈都道府県別年齢調整死亡率(国)、小樽市の保健行政、後志地域保健情報年報〉	96.4 ↓ (平成27年度) 〈都道府県別年齢調整死亡率(国)、小樽市の保健行政〉	88.2 (平成28年度*) (*国のがん対策推進基本計画終期)	がん死亡率は減少傾向であるが目標値には達していない。 全国78.0、全道87.7であり、本市のがん死亡率は高い状況にある。 今後がん検診受診率の向上への取組が必要である。
②脳血管疾患の年齢調整死亡率の減少 (人口10万人当たり)	男性 50.0 女性 21.3 (平成22年度) 〈都道府県別年齢調整死亡率(国)、小樽市の保健行政、後志地域保健情報年報〉	男性 30.3 ↓ 女性 28.8 ↑ (平成27年度) 〈死因別年齢調整死亡率(国)、小樽市の保健行政〉	男性 41.1 女性 19.1	男性の死亡率は大きく減少し、全国37.8を下回り、目標を達成している。 女性は死亡率が上昇し、全国21.0より上回っている。 今後も国保や後期高齢の保険者と協働した対策の継続が必要である。
③虚血性心疾患の年齢調整死亡率を増加させない (人口10万人当たり)	男性 115.0 女性 62.2 (平成22年度) 〈都道府県別年齢調整死亡率(国)、小樽市の保健行政、後志地域保健情報年報〉	男性 76.7 ↓ 女性 48.1 ↓ (平成27年度) 〈死因別年齢調整死亡率(国)、小樽市の保健行政〉	男女ともに増加させない	男女ともに死亡率は減少し、目標を達成している。 全国の男性65.4、女性34.2より死亡率が高いため、今後も国保や後期高齢の保険者との協働した対策の継続が必要である。
④糖尿病の年齢調整死亡率を増加させない (人口10万人当たり)	男性 9.6 女性 2.1 (平成21年度) 〈都道府県別年齢調整死亡率(国)、小樽市の保健行政、後志地域保健情報年報〉	男性 7.6 ↓ 女性 3.1 ↑ (平成27年度) 〈死因別年齢調整死亡率(国)、小樽市の保健行政〉	男女ともに増加させない	男性の死亡率は減少したが、女性は増加している。 全国の男性5.5、女性2.5より死亡率が高いため、今後も国保や後期高齢の保険者と協働した対策の継続が必要である。
⑤がん検診の受診率の増加	男性 胃 20.3% 肺 27.4% 大腸 24.3% 女性 胃 23.3% 肺 28.3% 大腸 24.2% 子宮 26.1% 乳 29.0% (平成22年度) 〈小樽市がん検診・特定健診に関する実態調査(小樽市国民健康保険加入者)(平成22年度)〉	男性 胃 21.6% ↑ 肺 31.1% ↑ 大腸 31.1% ↑ 女性 胃 20.0% ↓ 肺 38.0% ↑ 大腸 34.0% ↑ 子宮 21.0% ↓ 乳 27.0% ↓ (平成27年度) 〈「第2次健康おたる21」中間評価アンケート(国保加入者)(平成28年度)〉	男女ともに 胃、肺、大腸は40% 子宮、乳ともに50.0% (平成28年度*) (*国のがん対策推進基本計画終期)	男性のがん検診受診率は上昇しているが、目標値には達していない。 受診勧奨の継続が必要である。 女性のがん検診は、胃・子宮・乳がんの受診率が低下した。 女性のがん検診受診率向上の取組が必要である。 未受診対策として、がんの正しい知識の普及に積極的に取組み、国保や各種団体と協働し、受診率の向上を目指す。

目標	計画策定時数値 〈数値の出典〉	中間評価 時点の数値 〈数値の出展〉	目標値 (平成34年度)	課題と今後の方向性
⑥特定健康診査の受診率の増加	13.7% (平成23年度) 〈小樽市国保〉	16.0%↑ (平成27年度) 〈小樽市国保〉	60.0% (小樽市特定健康診査・特定保健指導第2期実施計画(平成25年度～29年度))	受診率は上昇したが目標値には達していない。 国保と連携し、健康意識の向上や健診の必要性について周知、啓発を継続する必要がある。
⑦特定保健指導の実施率の増加	13.3% (平成23年度) 〈小樽市国保〉	14.9%↑ (平成27年度) 〈小樽市国保〉	60.0% (小樽市特定健康診査・特定保健指導第2期実施計画(平成25年度～29年度))	実施率は上昇したが目標値には達していない。 今後も国保と連携し、未利用者に対する利用勧奨や、必要な方に対する受診勧奨を行い、早期からの生活習慣改善や重症化予防への取組を継続する。
⑧自宅などで血圧測定をする40歳代の割合の増加	21.1% (平成23年度) 〈健康づくりに関する市民健康意識調査(平成23年度)〉	17.2%↓ (平成28年度) 〈「第2次健康おたる21」中間評価アンケート(平成28年度)〉	増加	割合は減少し目標も達成していない。 40歳代で血圧計を持っていない方は47.9%で、自宅での血圧測定の重要性和血圧計の選び方などの周知を継続的に実施する必要がある。
⑨40～50歳代の運動習慣を有する者の割合の増加	34.5% (平成23年度) 〈健康づくりに関する市民健康意識調査(平成23年度)〉	34.1%↓ (平成28年度) 〈「第2次健康おたる21」中間評価アンケート(平成28年度)〉	増加	割合は微減となり目標は達成していない。 職域保健との連携などにより、運動の必要性について周知、啓発を継続する必要がある。
⑩20～60歳代男性の肥満している割合の減少	31.4% (平成23年度) 〈健康づくりに関する市民健康意識調査(平成23年度)〉	32.6%↑ (平成28年度) 〈「第2次健康おたる21」中間評価アンケート(平成28年度)〉	28.0%	割合は増加しており、目標も達成していない。 職域保健との連携などにより生活習慣改善の必要性について周知、啓発を継続する必要がある。
⑪成人の喫煙率の減少	全体 19.1% 男性 25.2% 女性 15.4% (平成23年度) 〈健康づくりに関する市民健康意識調査(平成23年度)〉	全体 18.3%↓ 男性 27.2%↑ 女性 11.8%↓ (平成28年度) 〈「第2次健康おたる21」中間評価アンケート(平成28年度)〉	全体 12.0%以下 男性 18.2%以下 女性 8.4%以下	男性の喫煙率は増加したが、女性と全体では減少した。 いずれも目標値には達していないため、がん予防、受動喫煙防止の必要性について周知、啓発を継続する必要がある。
⑫未成年者の喫煙をなくす	男性 12.2% 女性 2.2% (平成23年度) 〈健康づくりに関する市民健康意識調査(高校生)(平成23年度)〉	男性 10.2%↓ 女性 1.3%↓ (平成28年度) 〈「第2次健康おたる21」中間評価アンケート(高校生)(平成28年度)〉	男女ともに0%	男女ともに喫煙率は減少しているが目標値には達していない。 学校教育との連携などにより喫煙防止、受動喫煙防止の周知、啓発を継続する必要がある。

目標	計画策定時数値 〈数値の出典〉	中間評価 時点の数値 〈数値の出典〉	目標値 (平成34年度)	課題と今後の方向性
⑬未成年者の飲酒をなくす	男性 35.0% 女性 40.1% (平成23年度) 〈健康づくりに関する 市民健康意識調査(高 校生)(平成23年度)〉	男性 29.5%↓ 女性 20.3%↓ (平成28年度) 〈「第2次健康おた る21」中間評価ア ンケート(高校生) (平成28年度)〉	男女ともに0%	男女ともに飲酒率は減少しているが目標値には達していない。 学校教育との連携などにより未成年者の飲酒防止の周知、啓発を継続する必要がある。
⑭おいしい空気の施設登録件数の増加	65施設 (平成23年5月末)	133施設↑ (平成29年1月1日 現在)	増加	登録施設は毎年増加し、目標は達成している。 今後も登録件数の増加に向け周知の取組を継続する。
⑮食品中の食塩や脂肪の低減に取り組む飲食店などの登録件数の増加	0件 (平成24年度)	7件↑ (平成29年1月1 日現在)	増加	登録件数は増加している。 今後もさらに登録件数の増加に向けて普及、啓発を継続する。
⑯栄養成分表示の店の登録件数の増加	55施設 (平成23年度)	57施設↑ (平成29年1月1 日現在)	増加	登録施設は微増。 今後もさらに登録施設の増加に向けて普及、啓発を継続する。
⑰食事バランスガイドを参考にしたい者の増加 ・1日当たりの食塩摂取量の減少 ・1日当たりの野菜摂取量の増加	49.2% 10.4g 133.7g 〈小樽市食育推進計画 食育に関するアンケート(平成21年度)、健康 づくりに関する市民意 識調査(平成23年度)〉	80.2%↑ 9.3g↓ 196.5g↑ (平成28年度) 〈「第2次健康おた る21」中間評価食 育アンケート(平 成28年度)〉	増加 食塩摂取量 8g 野菜摂取量 350g	食事バランスガイドを参考にしたい者、野菜摂取量は増加、食塩摂取量は減少している。 食塩、野菜摂取量は目標値に達していないため、今後も普及、啓発の取組を継続する必要がある。

(2) 精神保健領域

目標	計画策定時数値 〈数値の出典〉	中間評価 時点の数値	目標値 (平成34年度)	課題と今後の方向性
①自殺予防に関する相談機関の地域連携体制への参加登録件数の増加	26施設 (平成23年度)	54施設↑ (平成28年度)	増加	登録件数は増加している。 今後も増加に向けて周知を継続する。

(3) 感染症領域

目標	計画策定時数値 〈数値の出典〉	中間評価 時点の数値	目標値 (平成34年度)	課題と今後の方向性
①麻しんワクチンの接種率を95%以上にする	1期 86.8% 2期 89.0% (平成23年度)	1期 91.0%↑ 2期 94.7%↑ (平成27年度)	95.0%以上	接種率は1、2期ともに上昇しているが、目標値には達していない。 接種率向上のため、啓発及び未接種者への勧奨を継続する必要がある。

(4) 口腔保健領域

目標	計画策定時数値 〈数値の出典〉	中間評価 時点の数値 〈数値の出典〉	目標値 (平成34年度)	課題と今後の方向性
①3歳でむし歯のない者の増加	69.8% (平成23年度) 〈小樽市3歳児歯科健康診査結果〉	80.6% ↑ (平成27年度) 〈小樽市3歳児歯科健康診査結果(H25～H27の平均値)〉	80.0%以上	むし歯のない3歳児の割合は増加し目標は達成している。 さらにむし歯のない3歳児を増やすため、周知、啓発を継続する必要がある。
②12歳児の一人平均むし歯数の減少	1.85本 (平成23年度) 〈公立学校児童生徒の健康等に関する調査〉	1.5本 ↓ (平成26年度) 〈同左〉	1.0本	一人平均むし歯数は減少しているが、目標値には達していない。 今後もむし歯の減少に向け啓発に取り組む必要がある。 また、一人平均むし歯数とともに、むし歯のない者の割合も注視していく必要がある。
③40歳代で進行した歯周病を有する者の減少	30.9% (平成23年度) 〈健康づくりに関する市民意識調査(平成23年度)〉	25.9% ↓ (平成28年度) 〈「第2次健康おたる21」中間評価アンケート(平成28年度)〉	25.0%	歯周病を有する者の割合は減少しているが、目標値には達していない。 今後も歯周病にならないための周知、啓発に取り組む必要がある。
④60歳代で24本以上の自分の歯を有する者の増加	39.7% (平成23年度) 〈健康づくりに関する市民意識調査(平成23年度)〉	47.7% ↑ (平成28年度) 〈「第2次健康おたる21」中間評価アンケート(平成28年度)〉	50.0%	24本以上自分の歯を有する者の割合は増加しているが、目標値には達していない。 今後も自分の歯を有する者の割合を増加させるための周知、啓発に取り組む必要がある。

(5) 次世代の健康づくり

目標	計画策定時数値 〈数値出典〉	中間評価 時点の数値 〈数値出典〉	目標値 (平成34年度)	課題と今後の方向性
①エイズ、妊娠・避妊について正しい知識を有する割合の増加	エイズ正解率 26.8% 妊娠・避妊正解率 65.5% (平成23年度) 〈健康づくりに関する市民意識調査(高校生)(平成23年度)〉	エイズ正解率 23.1% ↓ 妊娠・避妊正解率 69.9% ↑ (平成28年度) 〈「第2次健康おたる21」中間評価アンケート(高校生)(平成28年度)〉	増加	妊娠・避妊に関する正解率は増加したが、エイズ正解率は減少した。 今後も正しい知識の普及のため、関係機関と連携して健康教育などを実施していく必要がある。